



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2018.12.10 Vol. **158**

三蔵五訓

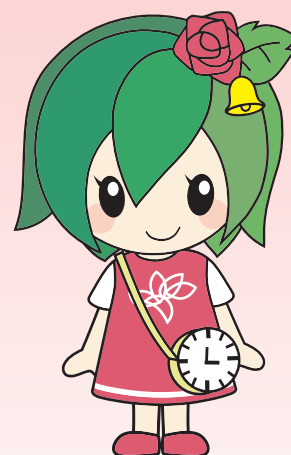
真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



2020年12月末竣工予定『未来創造館』

揺るぎなく前進！

トピックス	1
第44回 三蔵祭	5
地域連携活動	7
国際交流瓦版	9
学友会短信	10
頑張る福大生	11
後援会情報	15
入試広報室から	15



福山大学イメージキャラクター
「ふくりん」

第4回 福山大学研究成果発表会を開催！

2018年度第4回福山大学研究成果発表会「未来創造人」を育成する教育・研究」が、6月27日(水)に福山市ものづくり交流館において開催されました。この研究成果発表会は、5学部14学科及び研究センター等の教員が行った研究成果を備後地域の企業及び高校生や地域住民など多くの皆様方に発信していくことを目的とする福山大学教員による研究成果の発表会で、前半の特別講演会と後半の研究成果ポスターセッションに分かれています。

前半の特別講演会は、都祭弘幸社会連携センター長の司会によって開会し、講演に先立って富士彰夫副学長より2015年度から始まった研究成果発表会は福山大学のシーズと地域のニーズを円滑に繋げる場として開催されていること、今回は福山大学と広島銀行との3回目の連携企画であること、テーマの「未来創造人」を育成する教育・研究」は福山大学が地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会に繋がる未来の場を創っていく「未来創造人」を育てていくことをミッションとして掲げていることから採用したこと、地域に根差した福山大学が地域と連携・交流しながら地域貢献や学生を育む時に福山大学のブランディングを明確にする必要性と、2017年度に文部科学省の私立大学研究ブランディング事業「瀬戸内海しまなみ沿岸生態系に眠る多面的機能の解明と産業支援・教育」として選定されたことから今回のブランディング関係の発表は里海部分になり、現在、重点的に取り組んでいることなどの挨拶がありました。

富士副学長の挨拶に続いて、特別講演会が2演題行われました。最初の講演者は、福山大学が株式会社広島銀行と連携包括協定を締結していることから、一般財団法人ひろぎん経済研究所常務理事の岡崎裕一氏で「スポーツを活用した地域の活性化」と題して講演を行っていただきました。広島あるいは中国地方で「スポーツが持つ力」「スポーツが人々を勇気付ける力」「活性化する力」など、スポーツを活用した地域の活性化の方向性について、中国経済産業局との「中国地域プロスポーツ団体等による連携プラットフォーム構築事業」における地域の活性化を図るための取り組みを中心に説明がありました。

続いての講演者は、福山大学内海生物資源研究所長の有瀧真人教授で「しまなみテッポウギスプロジェクトのご紹介～福山大学ブランディング推進研究「瀬戸内の里山・里海学」より～」と題した福山大学ブランディング研究についての講演でした。3年前から福山大学ブランディング推進研究の瀬戸内海の里山・里海の一環として、因島の内海生物資源研究所で里海を中心に解明された生態系の研究資源を地域社会へ還元することを目的に、シロギスの養殖研究を中心とする「しまなみテッポウギスプロジェクト」に取り組んでいることや「しまなみテッポウギスプロジェクト」名の由来は、最大限に大きく育ったシロギスの地方名である「テッポウギス」に世界的に有名なしまなみ海道の「しまなみ」を冠として付けたものとの説明があり



ました。さらに、有瀧教授からは25cm以上の大型に成長させるシロギスの基礎技術が確立されてきたこと、早く大きくする技術やエネルギーを消耗する産卵を行わない飼育コントロール技術、大きくなる個体を集めた選抜育種とテッポウギスの遺伝子解析を組み合わせた安定生産技術の開発などの取り組みについての説明もありました。

後半の研究成果ポスターセッションは61題で、発表者は聴講者に研究までの背景や研究の目的、その目的を達成するための方法、研究で得られた成果とその応用事例、さらには研究内容に関連する共同研究や受託研究の可能性等をわかりやすく説明するとともに、教員間では学部・学科を超えた様々な意見交換も行われました。

研究成果発表会への来場者数は、特別講演会が約110人、研究成果ポスターセッションが約150人で、盛況のうちに終了することができました。

社会連携センターは、研究成果発表会のテーマにある「未来創造人」を育成する教育・研究」に向けて一翼を担うとともに、産学官金によるシーズとニーズのマッチングをさらに推進させたいと考えています。

社会連携センター 助教 中村 雅樹



「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～ 地域人材コース」に学生が採択され留学！

福山と海外を繋ぐ様々な経験を通じ、グローバルな視野で地域の活性化に貢献したい……。

そんな意欲ある学生を対象に、福山市が今年度から開始した「ふくやまグローバル人材育成事業」では、海外留学と地元企業でのインターンシップを組み合わせた「福山市トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～地域人材コース」という産学官が連携して実施するプログラムに、本学から5人の学生が採択されました。（全体で10人）

今回の募集枠10人程度という狭き門を潜り抜けて採択された学生及びテーマ並びに留学先は、下記のとおりです。



学 部	学 科	氏 名	留学テーマ	留学先
経済学部	国際経済学科	宇都宮大樹	世界有数のリゾート地バリ島から学ぶ ツーリズムで瀬の浦の観光客増加を目指す	インドネシア
経済学部	国際経済学科	小山 美幸	剣道を通して学ぶ！外国人労働者問題 解決の研究	ベトナム
経済学部	国際経済学科	新谷 一樹	外国人を日本で受け入れるためのイン ターンシッププログラム	フィリピン
生命工学部	生 物 工 学 科	片岡玲実奈	アメリカとアジアで学ぶ食と 6次産業化ビジネス	アメリカ ラオス
生命工学部	海洋生物科学科	鈴木 滉己	ニュージーランドの大規模養殖に学ぶ 瀬戸内の養殖業発展へのチャレンジ	ニュージーランド

ここで、まず簡単に「福山市トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～地域人材コース」についての概要を説明します。

この事業は、地域の活性化に貢献し、地域に定着するグローバル人材の育成を目的に、福山市出身の大学生と福山市に立地する大学に在籍する学生を対象に、今年度から開始されました。

このプログラムでは、学生自らが留学の期間を含めた留学計画を企画・立案します。そして、厳しい審査を経て採択された学生には、主に地元企業からの寄附金による奨学金・授業料・渡航費が支給されます。最も大きな特徴としては、学生たちが地域や企業が抱える課題を整理できるよう留学前に地元企業でインターンシップを行い、留学後はその経験を活かした課題解決提案等を行うという点です。

福山大学のこれまでの国際交流の取り組みをベースに、コーディネーターである経済学部国際経済学科の足立浩一教授をはじめ、各教員が海外協定大学や企業に協力を要請し、学生たちは将来のキャリアを描きながらプログラムを立案しました。産学官が連携して行うからこそ可能となるこのプログラムによって、学生

たちはより実践的な学びや経験を得ることができます。そして、採択された学生たちには卒業後、福山市と国際社会を繋ぐ役割を担う人材として、地域においてリーダーシップを発揮していくことが期待されています。

つまり、グローバル志向を持つ学生とグローバル志向の強い地元企業を結びつける、学生の意向と企業のニーズを踏まえた海外留学プログラムということです。留学計画を自ら企画・立案するだけでなく、企業でのインターンシップや地元の課題解決提案など、学生の皆さんにとっては非常にハードルの高い挑戦になると思います。

しかし、このプログラムを通して得られる経験は、学生の皆さんにとっては一生の財産になると同時に、地域社会にとっても大きな力となります。

皆さんが将来、地域の中核となって活躍する姿を見るのが今から楽しみです。頑張ってください。

総務部 企画・文書課



日本・アジア青少年サイエンス交流事業

「さくらサイエンス」に今年度も採択！

【はじめに】

工学部は、スマートシステム学科を中心として国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が公募する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)」の補助を受け、ベトナム国立ハノイ土木大情報工学部から教員1人と4年生10人を招聘しました。福山大学の採択は4回目になります。今回のテーマは「瀬戸内の自然とスマートシステムの共生を考察する」で、スマートシティ構築のためのインタラクティブな体験型学習(ハンズオンセミナー)、広島市内への企業見学、平和記念公園や原爆資料館での平和学習、そして福山市内の企業見学、鞆の浦観光や企業等との交流会を実施しました。

8月27日(月)の早朝、一行は関西国際空港に無事到着しました。初日は、歓迎会、オリエンテーション、学内見学、そして尾道の散策を行いました。

【ハンズオンセミナー】

8月28日(火)及び30日(木)は、IoTハンズオンセミナーを実施しました。スマートタウン化を進めるベトナムのハノイとスマートシティ化を考える福山市の将来のコラボレーションも見据えて、実習テーマは「スマートシティを構築するためのIoT技術の活用」としました。スマートシステム学科教員の指導の下、電子・電気工学専攻の大学院生3人と学科の4年生3人がTA(ティーチングアシスタント)として、そして機械システム工学科のベトナム人留学生が通訳として協力してくれました。スマートシティは、安全、健康、教育、交通、エネルギーなどを効率よく運用するように、IoTを活用してインフラが整備されるので、まずは企画、次にシステムの設計となります。ハノイ土木大からの学生10人と日本人学生の混成チームを5チーム作って作業を進めました。言語は英語でした。学生同士の意志疎通は容易ではありませんが、イラストや身振り手振りなども交え、1日目の終わりに各チームとも議論ができるようになり、センサやマイクロコントローラ、そしてデータを無線送信する通信デバイスの構成の設計を終えました。30日(木)は、IoTシステムの製作に続いて実験でした。あるチームは、スマートパーキングを想定して学科の自動走行車イスを利用して実験し、また別のチームはインフラの老朽化対策をテーマとし、ロダン橋の振動を検出しました。全チームともに有意義な考察を導き出し、ミッションを終えました。皆さん、大満足でした。



ハンズオンセミナーの初日の様子です。
まだごちない感じです。

【見学・交流】

8月29日(水)は、日本人の大学院生2人も加わって広島市内へ赴き、平和学習として平和記念公園や原爆資料館を訪れました。さらに、IoT通信企業であるソフトバンク(株)広島オフィスとモデルベース開発で優れた性能の車両を開発するマツダ(株)も見学しました。31日(金)は、シャープ(株)においてクリーンルームでIoTに不可欠な半導体センサの製造工程を見学しました。さらに、午後は手握りちくわ作りを体験し、尾道ラーメンを食して、鞆の浦を散策しました。そして、夜は福山市内の企業の皆さんや広島県、福山市、商工会議所の皆さんとの交流会を開催し、様々な分野の方々と交流ができました。最終日は、スマートシステム学科の研究紹介を行い、午後は送別会を開催して再会を約束しました。



ハンズオンセミナー2日目の実験です。
すっかり打ち解けて笑顔が漏れます。

【終わりに】

世界的には第4次産業革命(Industry4.0)が言われ、ベトナムではハノイに日本のODAと日本企業によるスマートタウンの建設が進められていることから、来日した皆さんの中には母国のプロジェクトに寄与する方がおられるでしょう。この度の研修は、実習及び企業見学による技術体験に加えて、特に企画の部分に力点を置きました。また、Industry4.0に加え、日本では超スマート社会(Society5.0)が謳われており、福山市にもAI/IoTを駆使した街づくり構想があります。今回、参加者からは高い評価をいただき、再来日して福山大学での研究を望んでくださる方もおられました。スマートテクノロジーは、自然環境を保全し、平和な社会を維持すべく寄与しなければなりません。本事業を端緒として、県や市、地域企業の皆さんと魅力ある備後地域を成し、彼らとも持続可能な関係を築けると良いと思います。

工学部長 香川 直己



交流会後の記念撮影です。

女性活躍促進賞「メタセコイア賞」を松田学長が受賞！

松田文子学長が広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」を受賞し、7月30日(月)に広島大学東千田キャンパスにおいて、授賞式及び受賞記念講演が行われました。



松田学長は、1971年に広島大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程後期を修了後(文学博士)、広島女子大学児童学科助教授(1978-1984年)、鳴門教育大学学校教育学部助教授(1984-1987年)、同教授(1987-1993年)、広島大学教育学部教授(1993-2001年)、同大学大学院教育学研究科教授(2001-2004年)を経て、2004年4月から福山大学人間文化学部心理学教授となり、2010年6月から同大学学長、2016年6月から学校法人福山大学副理事長に就任し、現在に至ります。専門分野は、時間の心理学、教育心理学、発達心理学で、主な著書は『関係概念の発達：時間、距離、速さ概念の獲得過程と算数「速さ」の授業改善』(北大路書房,2002)、“Comparison of development between temporal and spatial concepts”(KAZAMA SHOBO,2008)などです。

メタセコイア賞は、「女性自ら先導し、あるいは女性の活躍の場を広げることによって、社会全体の活力向上に貢献した個人・団体を顕彰する」ためのもので、今回の受賞は女性心理学者としてのこれまでの研究業績をはじめ、学長としての活動が認められたことによるものです。

講演では、敗戦後の女性の意識や行動等の変化とライフサイクルの変化、これからの社会において求められる女性の生き方などが問題提起されました。講演の内容については、概略が学長から届いています。

「受賞を大変光栄に思います。ただ、私がそのような賞に値する活動をしたかというところ・・・ちょっとどうかなと。毎日読んでいる3種の新聞から「男」「女」が見出しに出てくる記事を1か月あまり集めたところ、「女」については「がんばっている

ね!」「がんばって!」という記事が圧倒的に多く、「男」についてはそのような記事は皆無でした。そういえば、今回のメタセコイア賞の受賞理由もそうです。「女」が社会でがんばるとほめられる世の中になったことは、「女はいずれ家庭に入るのだから助手には残せない」と、当時としてはごく常識的な理由で母校に残れなかった私から見ると感慨深いものがありますが、もし「男」のみが受賞できる賞が今あったら、それはどうこうたる非難的でしょう。このような女性支援限定の賞が必要ない社会にしていきたいのですが、そうなるより先に、少子超高齢化、人口減少、人生100年時代に突入してしまいました。

1905年生まれの女性の典型的な一生は、23歳で結婚し6人の子どもを産み育て、夫を見送って末子を結婚させ、1年後に自身も64歳で生涯を閉じる、というようなものでしたが、今は激変しています。64歳までの生産年齢人口では男女の数に差はありませんが、女性の方が長寿なので、以降は高齢になるほど女性が多くなります。しかし、平均寿命で62歳ある男女差は、健康寿命では2.7歳に縮み、老老介護の増加が危惧されます。今後、生産年齢人口が確実に減少していく中で、健康な高齢者がそれをカバーする仕組みを考えざるを得ませんが、中でも高齢女性がどれだけ心身の健康を維持して積極的に社会参加を続けるかが、とても重要になりそうです。そのあたりに、立派な(?)後期高齢者である私の受賞理由があるのかもしれませんが。」

広島大学ホームページによると、「(メタセコイアの)あらゆるところから芽吹く旺盛な生命力とまっすぐに育つ若木の成長の早さが特徴で、広島大学旧東千田キャンパスにはこの苗木が美しい並木として四季に彩りを添えていました。(中略)メタセコイアの樹木のように、女性が個性と能力を存分に発揮し、世界中で力強く活躍することを願い、本賞を設立しました」とあります。附属小学校から大学・大学院までを広島大学で過ごした松田学長には、メタセコイアはとても馴染みのある木でしょう。今回の受賞には不思議な繋がりを感じます。

ところで、福山大学のシンボルはゼルコバ(けやき)の木です。開学44年目を迎える本学からの卒業生も、ゼルコバのように強く・強く社会で活躍しています。今回の授賞式を通じて、教育を通じてローカルにもグローバルにも活躍できる人材を育成する高等教育機関の役割の重要性について、再認識させられました。

松田学長、おめでとうございます。

秘書室長 坪根 栄俊



第44回 三蔵祭

三蔵祭から2ヶ月

寒さが一段と身にしみ、今年も1年の終わりが近づいてくる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

三蔵祭も終わり、早2ヶ月が経ちました。振り返ってみると早いもので、今年の2月から動き始めましたが、あっという間に過ぎ去った日々に感じます。今年は、台風や西日本豪雨の影響で予定が遅延したりとトラブルもあり、三蔵祭の準備も遅れて厳しい状況に立たされたこともありました。しかし、各部の部長や運営委員会に所属する部員たちの頑張り、加えて事務の方々の助力もあり、無事に三蔵祭を迎えることができました。

三蔵祭当日は、両日とも天気に恵まれ、今年の三蔵祭の目標である地域の方々に来て楽しんでもらうという目標も達成することができ、とても喜ばしい限りでした。また、吉本芸人による漫才、そして平岡祐太さんのトークショー等も行い、たくさんの方々にご来場いただき大変盛り上がったように感じました。

最後になりましたが、各学科や各サークル、模擬店団体、地域の方々や特別企画ゲスト、事務の方々、そして三蔵祭にご協力いただいたすべての企業の皆様のご理解とご協力があった

このような成功という結果で終わりました。書面にはなりますが、関係者を代表して厚く御礼申し上げます。

そして、来年度も第45回三蔵祭が大成功に収まることを心より願っています。

第44回三蔵祭運営委員会 委員長
海洋生物科学科 3年 坂本 響



経済学部 松永のスポーツ振興について考える

私たち経済学科は、三蔵祭で松永のスポーツ振興について考えるイベントを開催しました。まず、松永出身でサッカーJ2リーグのカマタマーレ讃岐ヘッドコーチの上村健一氏に「松永のスポーツ振興について」というテーマで講演をいただきました。次に、社会福祉法人「虹の会ジョイジョイワーク」理事長の藤原博文氏にも加わっていただき、私たち学生との間で松永のスポーツに関するディスカッションを行いました。



スポーツに関して、多く話題になるのはオリンピックなど巨大規模のスポーツイベントですが、スポーツを通じた地域活性化というトピックスも注目を集めています。松永でも中村和裕助教と地域の方を中心に、スポーツを通じた松永地域活性化などについて議論が交わされています。その会合や今回のイベントでお話を伺っているなかで、私たち学生が取り組むべき課題は、大学生と松永地域の人々との交流が少ないという問題ではないかと考えるようになりました。今後は、交流のきっかけとしてのイベントを継続的に開催していくなど、福山大学と松永の域学連携に積極的に取り組んでいきたいです。私自身も、経済学科で学んでいるスポーツビジネスについて、今回のイベントで話せたことが大きな経験となりました。これからも、積極的にチャレンジする姿勢を忘れずに頑張っていきたいと思います。

経済学科 2年 慶留間 大智

人間文化学部 昔ながらの遊びを求めて人文の森での体験

人間文化学科では、『ようこそ！人文の森へ』と題して展示を行いました。子どもから大人まで楽しめる縁日をイメージして企画を始めましたが、最初のうちは先生が主体となり、学生側から意見が出てこないこともありました。しかし、話し合いを重ねていくうちに多くの意見が出るようになり、最終的には学生が主体となって三蔵祭を作り上げていると感じられるようになりました。特に、前日の準備には多くの学生が参加し、全員で協力してスムーズにできたと思います。

今回は、縁日として射的、ヨーヨーすくい、輪投げなど様々な遊びを用意し、また雰囲気作りでは教室を提灯、風船、ペーパーフラワーなどで飾り付けました。当日は多くのお客さんが訪れ、皆さんとても縁日を楽しんでくれているようでした。特に、スーパーボールのコーナーでは、お子様連れのお客さんが多数訪れ、大変賑やかでした。普段は子どもたちに接することの少ない学生も、今回の企画により子どもたちと接する貴重な機会を得ました。

この三蔵祭を通して、お客さんに楽しんでいただくためには、まず自分たち自身が楽しいと感じることが重要だというこ

とを実感しました。また、教室での配置や飾り付けを工夫したことで、来場者の皆さんに喜んでいただけて嬉しかったです。ここまで頑張った良かったなと思える三蔵祭でした。

人間文化学科 1年 松川 結菜
目黒 海結



工学部 建築の魅力は無限の可能性

建築学科では、工学部棟2号館の2階をメイン会場とし、卒業設計の作品展示やランプシェードのワークショップ、ゼミプロジェクトのパネル展示などを企画しました。建築学科の女子学生向けキャリア教育プログラム「びんご建築女子」チームは、模擬店でチーズハットグを販売し、大好評でした。また、学内で行われた建築業者主催の設計コンペ「行きたくなる屋上」と、毎年行われている高校生デザインコンペ「近未来のシェアハウ



ス」の表彰式も行われました。いずれも暮らしに対する新しい提案が多数出品され、建築の可能性を改めて感じました。

私たちの研究室では、蘭草栽培や能舞台調査、住宅設計など、これまでの研究の取り組みをA1ポスターにまとめました。そして、約30枚のポスターを会場全体に展示し、活動について報告しました。さらに、昨年度に製作したイチジク屋台をきっかけに本郷町のイチジク収穫をお手伝いし、当日も採れたてのイチジクを展示しました。また、ジャムやドライイチジクに加工して試食会も行いました。そして、共同研究を行っている地元の設計事務所と協力して、レンガ壁や漆喰塗りのDIY体験企画も実施しました。

建築関係の方々をはじめ、地域の方々にも多くご来場いただきました。幅広い分野に通ずる「建築」の魅力を堪能いただけたと思います。

建築学専攻 1年 大岩 智之

生命工学部 バイオについてもっと知ってもらおう！

今年の生物工学科の展示会では、私たちが普段行っている学生実習について知ってもらう様々な企画を行いました。今年は開催日程が前倒しになったため、ギリギリまで時間をかけて準備を行うことになりました。企画内容としては、学生が学内でいろいろな果樹を栽培しその記録や様子などをまとめたものや、学内及びその周辺の水質調査を行ってその結果をまとめたもの、マウスや昆虫などの生き物の標本、そして福山大学で醸造しているワインについてなど、他にも多くの展示を行いました。

特に人気だったのがワインのコーナーでした。私たちが醸造したマスカット・ベリーAのワインの香りを体験できたり、実際に使う醸造機具の展示、学内で採取した野生ブドウ（エビヅル）の苗木の雄樹・雌樹別展示、また飾り付けとしてグラスタワーを設置したりもしました。来場者のほとんどの方々が興味を示してくださり、私たちの説明を熱心に聞いてくださいました。中には、私たちにワインのことを教えてくださいませんかという方もいて、とても勉強になりました。たくさんの方々にお越しいただき、楽しんでもらえたかなと思います。

来年の三蔵祭も、来場者の方々がより楽しんでもらえるような企画に洗練されていくと思いますので、是非ご期待ください。

生物工学科 4年 畠中 大樹



ワイン醸造所の展示コーナー

薬学部 僕らはゲノムアカデミア…始動!!!?!

私たち薬学部のゲノムアカデミアは、10号館1階で主にゲノムに関するアンケートやDNAストラップ作りの体験を企画しました。アンケートやミニ講義に参加した方には、お菓子をプレゼントしました。また、出生前診断や薬の代謝についてなど、遺伝子検査に関するポスターも掲示しました。

私たちのブースは今年度から立ち上げた企画で、4月から6

人(全員2年生)のメンバーを軸に、週1回準備を進めていきました。5月には親睦も兼ねてソフトボール大会に参加し、試合を通してチームの結束力も強まりました。また、夏休みには因島での合宿も行い、三蔵祭に向けての準備を着実に進めました。そして、後期からは時間が無い中、ポスター作りやDNAストラップのキット作りなどを行いました。

当日は老若男女を問わず、幅広い年代の方がたくさん来られました。一般の方に遺伝子についてわかりやすく説明するのは大変でしたが、皆さんしっかりと聞いていただき、中にはミニ講義やポスターの内容を質問してこられる方もいて興味を持ってもらえたことと実感し、頑張って準備して良かったと思いました。

2年生だけで初めてのブースを成功できたのは、ゲノムアカデミアの6人、そして一緒に手伝ってくれた他のメンバーのおかげです。また、このブースを作る手助けをしてくださった先生方や総監督(ゆかこ先輩)にも感謝しています。来年のゲノムアカデミアにも、是非ご期待ください。

薬学科 2年 高砂 みゆき



地域連携活動

「福山大学公開講座」について

福山大学公開講座が、福山大学と三原市中央公民館の2会場で、9月中旬から10月下旬にかけて「何もないとは言わせない!〜『瀬戸内の里山・里海学』の視点より〜」という統一テーマで開講されました。本講座は、福山大学教員の研究成果を地域社会に公開し、社会の人々に、生活及び職業上の専門的な知識と一般教養を高める学習機会を提供し、生涯学習の振興と文化的、産業・経済的な発展に寄与する目的で開講されています。概要としては、福山市が魅力発信を目的に掲げるキャッチフレーズの「何もないとは言わせない!」を統一テーマとして、福山大学の研究者が日々の研究活動のなかで発見している備後圏域の様々な

魅力や資源を、多角的観点から新たな研究成果やトピックスを交えながらわかりやすく紹介・解説しました。

また、閉講式において5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。会場ごとの延べ出席者数及び修了証書授与者数は、福山会場では延べ出席者数495人、修了証書授与者数76人、三原会場では延べ出席者数204人、修了証書授与者数36人でした。

来年度も、地域の方々への情報発信の場として貢献していきたいと思っています。

総務部 企画・文書課



回	福山	三原	講座名	講師
1	9/22	9/19	瀬戸内海は、生物の宝庫!! 〜里山・里海に見る、ふるさとの自然〜	生命工学部 阪本 憲司 准教授
2	9/29	9/26	地域の暮らしや営みが、人工知能とETCで どのように変わるのか	工学部 金子 邦彦 教授
3	10/ 6	10/ 3	新聞を活用した備後地域の新たな魅力・価値の 再発見と発信	人間文化学部 小原 友行 教授
4	10/20	10/17	薬局薬剤師による備後地区の方々への健康サポート 〜薬を受け取るだけじゃもったいない〜	薬学部 広瀬 雅一 講師
5	10/27	10/24	里山・里海関連産業と海外市場へのアクセスについて	経済学部 劉 曙麗 講師

「備後経済論」について

『備後経済論』は、経済学部の学生が地元企業、さらに備後経済に対する理解を深めるとともに、就職活動の参考にすることを目的として地元企業の経営者等を講師に招き、企業立ち上げの苦心談、経営理念、若い世代へのメッセージ等を熱く語りかけてもらう形式の講義です。平成15年度より開講して以来、地元企業経営者や業界団体関係者の招聘数は170人以上に達しています。

平成30年度は前年度に引き続き、担当者・世話人として、より多くの学生に備後地域のものづくりの醍醐味と革新性を伝えられるように、備後地域に生産活動の拠点を持つユニークな企業を選定し、企業訪問を行い、講義の趣旨説明を重ねてきました。『備後経済論』が名物講義として企業経営者の間でも幅広く知られていることもあり、10人の企業経営者や地域関係者などからご快諾とご協力を得ることができました。

経済学部の「白熱教室」を目指して、学生に企業経営者より身近に感じてもらい、また企業経営者などとのコミュニケーションもとれるよう学修支援システム(Cerezo)を活用しながら質疑応答の時間を設けました。平成28年度からの試みでしたが、学生の積極性が回を重ねて確実に高まっていると実感しました。

また、『備後経済論講義録』は毎年9月に刊行されており、在学生のみならず、地域の方々にとっても地域産業・地域企業を理解する生きた良き教材となっているように思いますので、幅広いご活用を願っています。

税務会計学科 教授 張 楓



平成30年度 経済学部後期授業『備後経済論』の日程

回	月 日	氏 名	社 名	役 職	事業内容
1	9月27日	張 楓	講義(はじめに)		
2	10月4日	小川 智弘	福山商工会議所	専務理事	福山市商工業の総合的な発展に関する支援
3	10月11日	龍田 昌樹	株式会社トイロ	代表取締役	オリジナル家具の企画、卸販売
4	10月18日	福田 延弘	日ブレ株式会社	相談役・会長	プレス金型の設計・製作
5	10月25日	内田 雅敏	北川精機株式会社	代表取締役	プリント基板プレス装置、新素材プレス装置などの製造販売
6	11月1日	渡邊 陽治	両備信用組合	理事長	地域金融機関
7	11月8日	片岡 義男	大洋電機産業	代表取締役	はんだごて、はんだ付け関連製品の製造販売
8	11月15日	三好 美寛	大和ツキ板産業株式会社	代表取締役	天然銘木化粧合板製造販売
9	11月29日	森谷 公一	有限会社森谷機械	代表取締役	機械関連商社、ポータルサイト「ものつく備後」の運営
10	12月6日	荒井 照三	株式会社インデッパ	代表取締役	トータルアパレルプロデュース、ライフスタイルショップ経営(テトテテ)
11	12月13日	清上 浩司	ミゾウエプロジェクトジャパン	代表取締役	計測機器、医療機器の製造販売
12	1月24日	張 楓	講義(おわりに)		

「BINGO OPEN インターンシップ」について

今年度で9年目を迎えるBINGO OPEN インターンシップは、学生一人一人の可能性を伸ばす貴重な学びの機会と捉え、他大学にはないインターンシップ合同企業説明会、事前研修、事後研修、学内発表及び備後4大学(福山大学、福山平成大学、福山市立大学、尾道市立大学)によるインターンシップ合同成果報告会を開催し、実習での気づきや学びを確かな力として定着させる独自の研修プログラムを展開しています。

まず、5月25日(金)にインターンシップ合同企業説明会を大学会館で開催しました。今年度は備後4大学の学生550人と企業は最多の55社が参加し、企業担当者から直接、企業のことやインターンシップの内容について説明を受けたり質問をしたりと会場は若い熱気に包まれました。この合同企業説明会や募集要項をもとに、学生は自分の目的に合ったインターンシップ先を探し、志望動機や自己PR文を書く応募書類を作成し、学内選考と企業選考によりインターンシップ先の企業が決まります。今年度は、夏季休業中に延べ152人の学生が参加しました。また、直前の8月7日(火)には参加意欲の向上や参加目的の意識づけを行うために事前研修を行いました。受入先の企業を大きく6つの業界に分け、各業界の代表的な企業担当者から業界、企業、仕事及び受入れに対する思いを説明してもらいました。その他、参加中の目標設定やマナー研修も行いました。そして、インターンシップ期間中には毎日、モチベーションや目標設定の達成度の振り返りのレポートを作成しました。参加して終了ではなく、実習後の9月20日(木)に事後研修を実施し、グループワークによりインターンシップの振り返りを行い、他の学生の経験との比較により新たな気づきに繋げる機会としました。さらに、10月4日(木)～5日(金)に学内発表を実施し、インターンシップに参加した仲間や後輩に向けて体験談や成果を披露しました。その集大成として、12月1日(土)に

は備後4大学によるインターンシップ合同成果報告会を本学が主体となり開催し、本学からは4人の学生が報告してインターンシップやキャリアについて考える機会となりました。

こうした一連のインターンシップ体験は、自分の強みや足りないもの等、自分を客観的に見つめ直す機会であり、今後の大学生活や具体的な就職を念頭においたキャリア形成を考える機会となっています。

大学教育センター 講師 津田 将行



インターンシップ先の企業で



事前研修にて

「府中学びフェスタ」について

府中市立総合体育館及びその周辺施設を会場として、「第8回府中学びフェスタ」が10月27日(土)～28日(日)の2日間にわたり開催されました。本イベントは府中市教育委員会生涯学習課による主催で、今年は「府中で熱中! 府中に夢中!」がテーマでした。府中にひそむ学びをもっと知り、熱中し、夢中になるという趣旨のもと、市内外の学校や地域サークルの文化系活動の発表、府中の歴史民俗資料館や企業体験ブース、さらにはパラスポーツ体験や体力測定などの体育系行事も企画されていました。

福山大学は協力校として2013年から5回目の参加であり、薬学部ブースでは「健康度チェック」「実験教室」「病気と遺伝子の関係についての展示」のコーナーを設けました。来客者は2日間で800人を超え、テントからはみ出すほどのにぎわいで、教員5人と病態生理・ゲノム機能学研究室の学生13人が学びのキッカケを提供しました。また、教員によりプロデュースされたダンスユニット「シュメルツミッテル」によるセントラルドグマ(遺伝情報がDNA→RNA→タンパク質へと順に伝達されることで発現するという分子生物学の概念)をテーマとした

「学びのダンス」が野外ステージで披露され、会場を元気いっばいに盛り上げていました。さらに、福山大学が推進している「地域に根ざした教育・研究」と「アクティブ・ラーニング(能動的な学び)」の一環として、教養教育科目「セルフメディケーション」の受講生10人も参加しました。受講生たちは、地域で実施されている健康に関わる取り組みにスタッフとして携わり、その取り組みの意義や運営方法などを体感しながら学びます。今回、受講生たちは薬学部ブースの健康度チェックコーナーで慢性閉塞性肺疾患の簡易スクリーニングや血圧測定などを担当しました。

このように、大学の教育活動は学内だけに留まらず、地域に outward, 社会や人と接しながら学びを得るというように学びのフィールドが益々広がっています。これらの様子は、11月9日(金)付けの薬学部ブログへ中国新聞キャンパスリポーター(薬学科/2年/道原あやなさん)から紹介されていますので、是非ご覧ください。

薬学科 講師 松岡 浩史



国際交流瓦版

- ◆(公財)熊平奨学文化財団の平成30年度第1回奨学生交流会へ潘慧嫻さん(経済学研究科/2年/中国出身)ら4名が、趙建紅国際センター留学生部副部長と出席。

(5月29日)

- ◆国際センター留学生部運営委員会的主催行事『しまなみサイクリング』を開催。瀬戸内の美しい自然を満喫。



(6月10日)

- ◆国際センター留学生部運営委員会的主催で、第4回留学生による多国籍料理教室を開催。ブルガリアからの交換留学生3人の指導の下、市民と福山大学の学生及び教職員がブルガリア料理を堪能。



(6月23日)

- ◆ひろしま国際交流サミット及び(公財)ひろしま国際センター主催の総会・講演会・親睦の集いが開催され、岩本博行国際センター長が出席。

(6月26日)

- ◆苏靖雯さん(メディア・映像学科/2年/マレーシア出身)ら8名の留学生が、盈進中学校・高等学校の『24時間英語合宿』に英語ティーチングアシスタントとして参加。



(7月20日・21日)

- ◆ブルガリア協定校のヴェリコ・タルノヴォ大学から交換留学生として在籍しているフリステーナさん(人間文化学科)が、グリーンサイエンス研究センターを訪問し、生物工学科の学生と交流。



(7月26日)

- ◆中国協定校の上海師範大学で、夏季集中中国語・中国文化研修を実施。豊田美幸さん(薬学科/4年)ら2名が参加。

(7月29日～8月25日)

- ◆ポーランドのヴィスチュラ大学と学術教育協定を締結。

(8月3日)

- ◆中国協定校の山西師範大学の開学60周年記念式典に、富士彰夫副学長が出席。



(9月15日)

- ◆平成30年度後期入学式が挙行され、15人の編入学生及び1人の交換留学生が入学。



(9月18日)

- ◆広島県留学生生活躍支援センター主催行事『外国人留学生のための体験入学会』を本学で開催。広島県、岡山県の日本語学校に通う外国人留学生約20人が、経済学部や人間文化学部の授業を体験。本学在籍留学生等とも交流。



(9月27日)

- ◆ブルガリア協定校のソフィア大学から交換留学生として在籍しているソフィヤさん(心理学科)が、生物工学科のワイン実習を体験。



(10月2日)

- ◆第44回三蔵祭で留学生会が模擬店を出し、餃子を販売。



(10月13日・14日)

- ◆国際センター国際交流部の主催で『第5回日本語・英語プレゼンテーションコンテスト』が開催され、日本語の部に4人、英語の部に7人が出場。日本語の部では、徐少聡さん(国際経済学科/2年/中国出身)が「文化の力」で、英語の部では、流尾智也さん(国際経済学科/3年)が「I fell in love with English」でそれぞれ最優秀賞を受賞。



(10月14日)

- ◆米国協定校のカリフォルニア州立大学サンマルコス校からスウィーニー三好順子氏が来学し、松田文子学長及び富士彰夫副学長を表敬訪問。その後、「トビタテ! 留学JAPANプログラム」で同校の留学及び現地企業でのインターンシップを行った片岡玲実奈さん(生物工学科/2年)と留学を考える会を実施。



(10月22日)

- ◆(公財)熊平奨学文化財団の平成30年度第2回奨学生交流会へ薛小凡さん(人間科学研究科/2年/中国出身)ら3名が、趙建紅国際センター留学生部副部長と出席。



(10月29日)

学務部 国際交流課

祝 全国大会出場！

学友会サッカー部は、平成30年8月22日(水)～11月17日(土)に中国地方の8チームの1・2年生メンバーが参加して開催されました第2回平成30年度中国大学サッカー連盟新人戦において優勝し、平成30年12月17日(月)から開催されます第2回全日本大学サッカー新人戦へ出場いたします。同部としては、昨年開催されました第1回大会に続いて2年連続の全国大会出場となります。

- 対戦相手：東北選抜 12月17日(月)
桐蔭横浜大学 12月18日(火)
関西大学 12月20日(木)
- 場 所：流通経済大学サッカー場

【サッカー部】

- 4月29日～11月4日
2018年度中国大学サッカーリーグ1部
リーグ出場
- 6月2日～10月20日
Iリーグ中国2018出場

【硬式野球部】

- 6月22日～24日
中国地区大学野球新人戦 準優勝
- 9月1日～10月22日
平成30年度中国六大学野球秋季リーグ
戦出場

【陸上競技部】

- 6月2日
第51回広島県学生陸上競技選手権大会
出場
- 6月30日
第71回西日本学生陸上競技対抗選手権
大会出場
- 6月30日・7月1日
第72回広島県陸上競技選手権大会出場
- 8月18日・19日
第72回中国五県陸上競技対抗選手権大
会出場
- 9月23日
長距離個人記録会出場
- 10月26日～28日
第41回中国四国学生陸上競技選手権大
会出場

【剣道部】

- 6月2日・3日
第63回西日本学生剣道大会兼
第33回西日本女子学生剣道大会出場
- 7月1日
第12回広島県学生剣道選手権大会出場
- 9月2日
第65回中国四国学生剣道優勝大会兼
第45回中国四国女子学生剣道優勝大会
出場

【柔道部】

- 8月24日・25日
中国四国学生柔道体重別選手権大会出場

【軟式野球部】

- 9月10日～13日
平成30年度西日本地区学生軟式野球
秋季II部リーグ優勝

【卓球部】

- 8月27日～30日
第69回中国学生卓球選手権秋季大会出場

【硬式庭球部】

- 8月27日～29日
平成30年度全日本大学対抗テニス王座
決定試合中国四国地区大会出場

【男子バレーボール部】

- 7月14日・15日
天皇杯・皇后杯全日本バレーボール
選手権大会広島県ラウンド出場
- 10月6日・7日
第88回中国大学バレーボールリーグ戦
秋季大会出場
- 11月10日
第18回広島県大学バレーボール選手権
大会出場

【弓道部】

- 6月18日
第42回広島県学生弓道親善試合
男子団体 準優勝、女子団体 優勝
- 8月12日～14日
第66回全日本学生弓道選手権大会出場
- 9月13日・14日
第45回広島県学生弓道男女リーグ戦
女子団体 優勝
- 10月19日～21日
第64回中国四国学生弓道選手権大会
男子団体決勝進出
- 12月2日
第46回広島県学生弓道新人戦出場

【二輪部】

- 6月10日
キャンパスオフロードミーティング
2018西日本大会 R1 優勝・準優勝
- 7月29日
2018ビギナーズエンデューロ第2戦
第3位
- 8月19日
キャンパスオフロードミーティング
2018西日本大会 R2 優勝・準優勝
- 10月19日～21日
2018FIM MotoGP 世界選手権シリーズ
第16戦オフィシャルスタッフ参加
- 11月11日
キャンパスオフロードミーティング
2018全国大会90minエンデューロ
(学生中級) 優勝

【フットサル同好会】

- 7月～3月
東部フットサルリーグ1部・2部出場
- 8月4日
BONOSカップ出場
- 8月23日
アイデムカップ岡山大会出場
- 11月3日・4日
SS AUTUMN CUP2018出場

【ジャグリングサークル ピース】

- 6月30日
見学会オープニングセレモニー
- 8月5日
体験入学会オープニングセレモニー
- 9月20日
三蔵祭広報イベントでのパフォーマンス
- 10月13日・14日
三蔵祭でのパフォーマンス

- 11月4日
今津小ふれあい文化祭
- 11月11日
ニチエーさんらいず店周年祭
- 12月2日
東村町かかし祭り

【ダンス部(ストリート)】

- 6月17日
Dance Rice出場
- 6月22日
さむらゐそうる出場
- 8月14日
PUCHI FUNKY PEOPLE出場
- 8月19日
B-Back出場
- 8月27日
THE TRIGGER出場
- 9月1日
Get Into出場
- 9月2日
5vs5 HIPHOP NEW SCHOOL JAM出場
- 10月13日・14日
三蔵祭ダンスショーケース
- 10月20日
HCDF 一年生大会 準優勝

【吹奏楽部】

- 8月26日
第25周年記念ふれあい音楽祭
- 9月16日
第25回ゲタリンピック2018
- 10月6日
大明神社芸能大会
- 10月7日
Charity Concert in Fukuyama
- 10月13日
三蔵音楽祭

【管弦楽団】

- 10月13日
三蔵音楽祭

【ユースホステル部】

- 5月26日・6月16日・7月14日
野外活動養成講座受講
- 6月2日・3日・16日・17日
ジュニアリーダー養成講座
ボランティアスタッフ参加
- 8月16日～18日
サマーキャンプ 引野地区連合子ども会
合同企画主催
- 8月17日～19日
わくわく体験村ボランティアスタッフ参加
- 11月10日・11日
ふれ愛ランド祭ボランティアスタッフ参加

【学友会執行部】

- 7月27日
リーダーズ会議
- 9月20日
三蔵祭広報イベント
- 10月12日～14日
三蔵祭
- 12月3日
学友会役員選挙
- 12月8日～9日
学友会ツアー

学務部 学生課

交換留学生として上海師範大学で奮闘中！

大家好(皆さんこんにちは)！

私は、9月7日(金)より本学の交換留学制度で上海師範大学に来了。上海師範大学のある上海は、中国の経済的最大の都市で、人口は第2位の2,418万人(2016年時点)というとても大きな都市です。また、鹿児島とほぼ同じ緯度で四季があり、日本と似ていてとても過ごしやすいです。私は、ここで中国語や文化を学んでいます。授業は週5日間で、昼休憩をはさんで午前8時から午後2時30分までであり、昼休憩は近くの学食で同級生と一緒に食べ、次の授業に備えています。各教科の先生は、厳しくもユーモアがあり、毎日が楽しいです。私のクラスは、イタリア人、フランス人、タイ人、キューバ人と国際色豊かで、どの国の人もフレンドリーでおもしろい人ばかりです。また、寮は韓国人の2人部屋で、最初は他の国の人と生活できるかとても不安でしたが、そう思ったのも最初の3日くらいで、今は彼を一番の友達だと思っています。

上海に来て約1ヶ月が経ちましたが、最初の不安と心配は留

学生仲間などのおかげで吹っ飛び、今は何でも来いと思えるようになりました。語学力だけでなく、人間力も成長させて人間的に大きくなって日本に帰れるように頑張っています。

経済学科 2年 井上 康平



「I ♥ SHNU」のモニュメントの向かって左側が私です。

欧州トップ10研修へ参加！

私は、8月31日(金)～9月19日(水)にポーランド、ハンガリー、ドイツで実施されたトップ10研修に参加しました。トップ10研修では、欧州の製造高度化を主要テーマとして、中国の「一帯一路」政策を契機としたアジアと欧州の経済的結びつきの他、欧州の経済通貨統合の課題やBREXIT(英国のEU離

脱)の影響についても学修しました。また、私は昨夏行われたトップ10のベトナム研修にも参加したため、今回は学生リーダーの立場で後輩の指導にもあたりました。ベトナム研修では、主に労働集約的な製造現場を見ましたが、今回は欧州におけるインダストリー4.0(産業の自動化・IT化による第四次産業革命)の進展を学修しました。ハンガリーのブダペスト工科大学インダストリー4.0センターでは、ヴァーチャルリアリティ等による製造過程のシミュレーションシステムを、ドイツのメルセデスベンツ・シンデルフィンゲン工場では、人とロボットの協働の可能性を垣間見ることができました。欧州の最先端の製造現場や研究所は、サービス業志向であった私に製造業の魅力を気付かせてくれるものでした。製造業が主要産業である備後地域の企業にとって、製造過程の自動化やIT化は課題だと言え、自分も将来、その分野で貢献できればと思いました。

国際経済学科 2年 三谷 龍哉



ドイツのメルセデスベンツ工場を訪問

人間文化学科で頑張っていること！

私が人間文化学科で頑張っていることは4つあります。

1つ目は、授業での資料作成及び発表です。人間文化学科の授業は発表形式のものが多く、これまでに発表資料を多く作成してきました。大学に入学するまでは、資料をまとめる・発表するという授業形態はほとんどなかったため、入学当初は戸惑いもありましたが、現在では発表することにも慣れ、緊張しながらも発表ができていく点は私自身が成長したのだらうと考えています。2つ目は、オープンキャンパス等の行事に積極的に参加していることです。オープンキャンパスの学生スタッフとして参加して成長を感じる場面は、コミュニケーション能力がこれまでと比べて向上している点です。初対面の方とコミュニケーションをとることが苦手な私にとって、オープンキャンパスの学生スタッフは良い経験となりました。3つ目は、ドイツ語検定合格に向けた勉強です。第二外国語として、1年生の時に選択したドイツ語を授業や空きコマでの勉強会を通して、ドイツ語検定に合格できるように日々勉強しています。原先生のご指導の下、少しずつ力が身につけていることを実感しています。4つ目は、成績を維持することです。このことに関して普

段から強く意識しているというわけではありませんが、私の中にある基準を超えられるように努力しています。

人間文化学科 3年 三浦 由佳



ゼミでの発表風景

「鞆の浦 de ART」に参加！

メディア・映像学科では毎年、福山市鞆町内の各地で開催されるアート・イベント「鞆の浦 de ART」に学生たちが制作した写真作品や立体模型、映像作品を出品しています。今年は9月29日(土)から3週間開催され、開催地の一つである鞆の津ミュージアムの一室をお借りして、主に4年生の作品を中心に展示しました。



搬入作業は、展示壁に対してどのくらい余白をとりながら作品を配置するかなど、鞆の津ミュージアムの学芸員の方に教わりながら5時間かけて行いました。作品の完成度はもちろんですが、展示の見せ方にどれだけこだわることができたかが、展示の良し悪しの決め手となります。作品を水平に保つために印をつけ、写真の枠線を切るなどの作業を加えながら、何とか展示作業を終えました。映像作品は、昨年度から今年度にかけて授業内外で制作された短編映像作品やCG映像作品を中心にまとめ、ミュージアムの方によれば、会期中に映像作品のモニターの前で足を止めている方も多く、好評だったようです。また、10月21日(日)には閉館後に搬出作業を行い、その後のバーベキューでの打ち上げにも参加してきました。さらに、鞆の津ミュージアムへの来場者数も800人弱と聞いており、多くの方に観ていただけましたことをとても嬉しく思っています。「鞆の浦 de ART」関係者の皆様、今年も大変お世話になりました。

メディア・映像学科 4年 市山 結実

手作り気球ドローンをオープンキャンパスとETロボコンでお披露目！

夏季休業を利用して、同じクラスの田中幹人さんと手作りの気球ドローンを開発しました。大学会館や工学部棟のホールでプカプカしているのを見られた方もいらっしゃると思います。きっかけは、5年前の卒業生がやはり3年生の時にオープンキャンパスで制作した気球ドローンを再発見したことでした。すぐにこの気球に興味を持ち、復活させたいと作業に入りました。まずは、軽量化のために3D-CADとレーザー加工機でキャビンの再制作を行い、モーターも強力なものに変更してスムーズに操縦できるように改良しました。次に、より高度なことができるようにシステムのデジタル化を図り、遂には気球もより大きく作り直し、全く新しい気球ドローンを作りました。この気球はデジタル無線で制御され、無線Webカメラも搭載して気球から地上の様子がリアルタイムに観察できます。さらに、この気球は学内に留まらず、企画と開発技術を競うETロボコン2018のガレージニア部門にも出展して審査員から高い評価を得ることができました。

この他にも三蔵祭やインターンシップ、学外イベントへの協力など機会があるごとに参加しました。最近では単なるものづくりへの興味だけでなく、目的、技術、コスト感覚など何が必要かを知識と体験から考えることができるようになってきました。これからも学生実験の集大成となる大実験や卒業研究が楽しみです。



スマートシステム学科 3年 岩本 大河

国際会議で研究デモ発表！

10月9日(火)～12日(金)に開催された国際会議「2018 IEEE 7th Global Conference on Consumer Electronics(GCCE 2018)」のデモ発表に行ってきました。国際会議と言いつつも、今回行った先は奈良でした。大学院生として少しでも英語に慣れ、勉強できるように頑張って発表してきました。「GCCE 2018」は、IEEE(アイトリプリー)と呼ばれるアメリカに本部を持つ電気・電子技術に関する学会が主催する「家電」に関する国際会議になります。そこで、来年度大学院へ進学予定の武田祐樹さんとともに研究成果をデモ発表してきました。



Pointing-gestures' Angle Differences between a Standing posture and a Sitting posture, Daichi Yokoyama, Nobuhiko Hama, Noboru Nakamichi, Keiya Sugihara, Keita Watanabe, Toshiya Yamada, Proc. IEEE 7th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE), pp.116-119, 2018.

指差し操作のシステムで、立ったり座ったりすると人によってジェスチャーが変わる場合があります。例えば、頭と指先の延長で指差ししていた人が頭と親指の延長に変わる感じです。大きな画面になるとこの差が大きくなります。その原因として、どうやら「手を挙げる角度」によって変わらう、という分析結果になりました。これが、将来の使いやすい指差し操作システムの実現に繋がっていきます。デモでは、「手を挙げる角度」の違いを説明するために分度器を準備して伝える工夫をして臨んだ成果もあり、多くの方々からご意見をいただくことができました。

なお、この様子は学長室ブログでも掲載されていますので、是非閲覧いただければと思います。

<https://www.fukuyama-u.com/blog/7706/>

情報処理工学専攻 1年 横山 大知

平成30年度ひろしま地域食材PR促進事業でレシピ開発！

私たち生命栄養科学科の学生有志は、地元地域の活性化に貢献するために、広島県農林水産局の委託による「平成30年度ひろしま地域食材PR促進事業」に取り組みました。

本郷町の柿をメインに、川口町のスダチや東村町のサツマイモなど福山市の食材を使用したマフィンを開発しました。実際に柿を生産されている方々とも交流し、僅かな気候の差でも収穫時期が遅れてしまうなどといった栽培の苦労を伺い、私たちは柿スイーツ開発の思いをより強くしました。柿を加工するうえでの課題は、香りの弱さと実の軟らかさでした。そこで、しっかりした食感のサツマイモを組み合わせ、ジンジャーミックスの香りのアクセントをつけました。一方、スダチは爽やかな香りと酸味が活かせました。そのおかげで、この2種類のマフィンは対照的な美味しさに仕上がりました。三蔵祭では地域の方々に試食していただき、大変好評でした。また、10月末の福山市園芸祭では、さらに多くの方々に福山の食材を楽しんでいただけるように、マフィンに加えて福山の日本酒を飲み込ませたスダチカップケーキや甘酒と柿のカクテルなど、力を合わせて作りました。親子連れを含めて多くの方々に喜んでいただ

て、とても嬉しくやりがいを感じました。

今後も大学で学んだことを地域貢献に役立てたいと思いますので、ご協力とご支援をお願いいたします。

生命栄養科学科 4年 古寺 由季



熱い思いを胸に水族館に内定！

私はこの度、東京にあるサンシャイン水族館やしながわ水族館を運営する(株)サンシャインエンタプライズから内定をいただき、小さい頃からの憧れだった水族館で働く夢を実現することができました。しかし、正直に言うと大学生になるまでの間は漠然と水族館で働けたらいいなと考えていただけで、本気で水族館で働きたいと思い行動を起こしたのは、福山大学に進



学することを決めてからでした。入学当時は、知識も技術も人脈も無く、水族館系の専門学校生や水族館でアルバイトをしながら就職を希望するライバルが大勢いるということを先生から教えてもらい、私も負けずに大学での講義や実習に一生懸命取り組んだり休日を利用して水族館に行き、職員の方から水族館で働くのに必要な資質などを時に厳しく指導していただきました。特に、3年生の春からボランティア解説員をさせていただいている宮島水族館では、現場でお客様と関わるという貴重な経験や職員の方から仕事に対する取り組み方や技術、そして知識を学ぶことができたことが今では大きな財産になっています。他にも本当に多くの方々との出会いがあり、その一つひとつが私を成長させてくれました。

これから社会人としてさらに大きく成長して、お世話になった方々に水族館で活躍している姿を見せられるように頑張りたいです。

海洋生物科学科 4年 與倉 陵太

上海暑期学校 Shanghai Summer School 2018に参加！ ～マルチリンガル薬剤師を目指して～

私は2年生の夏に福山大学孔子学院主催のサマーキャンプに参加したことがきっかけで、中国語を学び始め、HSK受験や漢語橋中国語スピーチコンテストなどの様々な経験を積みました。今年の8月には更なる語学力向上を目指して、上海師範大学主催のサマースクールに参加しました。上海での研修中は、語学研修の他に中医薬や食文化、二胡などの民族音楽、建築など多方面の中国文化について学びました。特に、医師による鍼灸医学の体験や上海中医薬博物館訪問は興味深いものでした。また、博物館では様々な薬草や動物の剥製、鉱物が展示されており、生薬の多様さに驚きました。さらに、漢方薬局も訪問して生薬の種類や調剤の様子を見学し、伝統的な中医薬について学びました。今後も機会があれば、上海張江国家バイオ産業基地などを訪問し、最新の製薬事情についても学んでみたいと考えています。

上海到着時は言葉の壁を感じて不安でしたが、メンターの中国の学生が私の片言の中国語や英語を辛抱強く聞いてくれたおかげで、積極的にコミュニケーションを図ろうという勇気をもらいました。また、失敗を恐れず前向きに行動することで、

研修に参加していたブルネイやラオスの学生とも親しくなり、彼らの国や文化についても知ることができました。現在、日本にも多くの外国人が住んでおり、将来は服薬指導をする機会もあると思います。私は将来、中国語や英語を用いて適切な服薬指導ができる薬剤師を目指して、薬学について研鑽を積むとともに、語学学習にも継続して取り組んでいこうと思います。



薬学科 4年 豊田 美幸

タイ国立コンケン大学薬学生とオープンセミナーを開催！ ～日本とタイの薬剤師の役割について～

福山大学が、タイ国立コンケン大学薬学部の海外研修に協力していることから、今年度も9月18日(火)から6週間、6年生のSupalerk NuntitrakarnさんとKhanit Pisawongさんが来日し、福山大学及び福山近郊の医療機関で研修を受けました。

コンケン大学生との交流を図りたいと考え、学生主催のオー



プンセミナーを三蔵祭前日の10月12日(金)16時から34号館2階研修室で開催することを計画しました。タイ語や日本語ではお互いにコミュニケーションはとれませんが、英語はお互いに理解できる言語だったことから英語で司会や発表を行いました。改めて、英語を学ぶ必要性を感じました。オープンセミナーでは、お互いの大学のことや薬学部で学んでいることを紹介しましたが、その他、コンケン大学生からはタイにおける薬剤師の役割についても紹介がありました。その中で、コンケン大学の薬剤師国家試験の合格率はほぼ100%であることを聞き、優秀な大学なのだと思います。また、タイの薬剤師は処方箋がなくても医療用医薬品を提供できるなど、日本とは違う法律制度の下で薬剤師が活躍していることを知り、関心を持ちました。さらに、タイ文化の紹介ではタイ料理の話題で盛り上がり、懇親会も和やかで楽しい交流になりました。

薬学科 4年 杉原 崇寛

自主ゼミ「F4」、福山青年会議所との協働事業を推進中！

学部・学科及び学年を超えた仲間が集う自主ゼミ「F4(エフフォー)」では、活動3年目を迎える今年、地域で活躍する若手企業人の集まり「福山青年会議所」の皆さんと福山地域の魅力発見・発信を試みる「発信力向上プログラム」に取り組んできました。

約半年間のプログラムの中でも最も刺激的な2日間となった8月25日(土)～26日(日)の「発信力向上合宿」では、自主ゼミ生18人と福山市立大学の学生7人、福山青年会議所や講師の方々を合わせて総勢40人が集い、福山の魅力や特徴について語り合いました。グループワークでは、“アイデア”を課題解決につながる“企画”へと昇華させる難しさや具現化する際に生まれる様々な困難など、社会人ならではの視点や思考の広さ・深さを肌で実感することができました。生物工学科4年生の田中省吾さんは、「福山には魅力的なイベントもお店もあるが、私たちがその存在を知らないことが問題なのでは、という結論に至った。私たちの世代の強みであるスマホを活用して積極的に地域の情報を入手し、自らが拡散する立場になることが大切だと感じた。」と語ってくれました。

このように、他大学の学生や社会人との交流は、新たな視点

を数多く提供してくれます。このプログラムを通して学んだことを、しっかりと自身のキャリア観の醸成へ繋げたいと思います。

情報工学科 3年 大和 永樹



第66回全日本学生弓道選手権大会へ出場して！

弓道部は、8月13日(月)～16日(木)にかけて名古屋で開催された「第66回全日本学生弓道選手権大会」に出場してきました。

この大会の団体戦の部はオープン参加で、男子203チーム、女子



214チームで競います。しかし、個人戦の部は6月に開催される地方予選で基準をクリアした学生のみが参加できる仕組みになっています。今回、全国の地方予選を勝ち抜いた個人戦出場者は、男子は552人、女子は360人でした。福山大学からは、石部友貴さん(経済学科1年)、藤村天羽さん(心理学科2年)、木村駿さん(薬学科3年)、倉田菜々子さん(生物工学科2年)、佐藤香奈恵さん(生命栄養科学科2年)、稲田佳奈さん(生命栄養科学科3年)の男女それぞれ3名が地方予選を突破し、個人戦に出場しました。残念ながら、団体戦は男女ともに予選で敗退し、また個人戦も一次予選で全員敗退してしまいました。

今回はこのような結果に終わりましたが、参加した学生たちにとっては、貴重な経験となりました。弓道の基本である「射法八節」を重んじ、自分と向き合い、弓道と向き合い、日々の練習を重ねて、弓道部一同これから頑張っていきます。今後の弓道部の活動にご期待ください。

弓道部顧問 片桐 重和

後援会情報 福山大学後援会役員会(理事会)開催される！

三蔵祭(大学祭)期間中の10月13日(土)の午後1時30分から、福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。森静会長の挨拶に続いて、会長・副会長・監事・理事の紹介を行い、9月初旬に全国16会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。なお、平成30年度理事から副会長が新たに選出されました。

総務部 庶務課



入試広報室から

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を6月4日(月)～8日(金)及び6月28日(木)の計6日間、中国・四国・九州・沖縄の10会場で開催しました。本学会場では、大学参観を兼ねた入試説明会を実施し、参加教員の事前希望で因島キャンパスや各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学宮地茂記念館で両大学の入試説明会を行いました。参加者は、計17県107校116人でした。

◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は中国・四国・九州・沖縄の23都市44会場で高校生・保護者・教員の進学相談に応じました。

◆高等学校生徒・教員の本学訪問

4月下旬から福山大学への訪問は13校519人、福山平成大学への訪問は6校182人です。(11月末現在)

◆2018 Open Campus(見学会・体験入学会)

毎年恒例のOpen Campusを開催しました。参加者数は、見学会：第1回(6/30)高校生141人・保護者83人、第2回(9/15)高校生121人・保護者82人、体験入学会：第1回(8/5)高校生384人・保護者227人、第2回(8/19)高校生588人・保護者401人でした。

※春のOpen Campusを平成31年3月16日(土)に開催します。

平成31年度前期入試A日程・大学入試センター試験利用入試(前期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	平成31年1月7日(月)～1月25日(金) 消印有効	
試験日	平成31年1月31日(木)～2月3日(日) ※試験日自由選択制 (大学入試センター試験利用入試は個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	平成31年2月9日(土)	
試験地	【1/31～2/3】本学(福山大学・福山平成大学)・福山(宮地茂記念館)・岡山・広島・山口・福岡 【1/31】鳥取・浜田・宮崎 【2/1】米子・大分 【2/2】静岡・京都・熊本 【2/3】名古屋・神戸・佐賀 【1/31・2/1】東京・大阪・松山・高知・鹿児島 【2/2・2/3】松江・高松・今治・小倉	

平成31年度前期入試B日程

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	平成31年2月5日(火)～2月15日(金) 消印有効	
試験日	平成31年2月20日(水)	
合格発表日	平成31年2月23日(土)	
試験地	本学(福山大学・福山平成大学)・福山(宮地茂記念館)・岡山・広島	

平成31年度後期入試・大学入試センター試験利用入試(後期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	平成31年2月25日(月)～3月5日(火) 消印有効(大学入試センター試験利用入試は必着)	
試験日	平成31年3月9日(土)(大学入試センター試験利用入試は個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	平成31年3月13日(水)	
試験地	本学(福山大学・福山平成大学)・福山(宮地茂記念館)・大阪・岡山・広島・福岡	

◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

◇入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置について◇

福山大学では、平成30年6月大阪北部地震並びに平成30年7月豪雨災害などの災害救助法が適用された地域において被災した福山大学入学試験受験生に対する入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置を行うことになりました。詳細については、入試広報室までお問い合わせいただくか、ホームページをご確認ください。

編集後記

学報第158号では、今年の夏から秋にかけて行われた大学の各種行事やニュースをたくさん取り上げることができました。4件のトピックスをはじめ、大イベントの一つである三蔵祭で奮闘する学生の様子や各種地域連携活動、そして「頑張る福大生」のコーナーでは、学内外で活躍する学生をたくさん紹介することができました。今後も本学の様子をたくさん、そしてわかりやすく伝えていきたいと思います。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>